

インストールの前にお読みください

目次

インストールの前にお読みください	Page-1
インストールの前に	4
ソフトウェア動作環境	4
パッケージに含まれる内容	5
IMC のインストール手順	6
ソフトウェアのインストールメディア	6
インストールからソフトウェアを起動するまでのあらすじ	6
ドングルドライバーのインストール	9
Windows xp の場合	9
Mac OS X の場合	11
IMC 本体のインストールの実行 (Windows)	13
DVD からのインストール	13
IMC 本体のインストールの実行 (Mac OS の場合)	19
ライセンス情報の確認	25
インストールのトラブル	26
JRE のダウンロードとインストール	27
Java メモリー割当の変更	29
Java メモリー変更ユーティリティを使用する方法	30
Windows xp の場合	30
Mac OS X の場合	31
手動で Java メモリー割当設定を変更する方法	32
Windows xp の場合	32
Mac OS X の場合	33
64bit OS を使用する場合	34
Windows xp の場合	34
Mac OS X の場合	34
IMC のアンインストール方法	35
Windows xp の場合	35
Mac OS X の場合	36

あなたのライセンス情報

ドングル ID	0x_____		
ライセンス ID	L_____		
	Edition 名	登録日	更新期限
新規登録	IMC	20__/__/__	20__/__/__
ライセンス更新			
ライセンス更新			
ライセンス更新			
ライセンス更新			

インシリコモレキュラークローニング インストールガイド
in silico MolecularCloning Installation Guide

2005 年 3 月 15 日 初版

2010 年 5 月 12 日 改訂版

著者 インシリコバイオロジー株式会社

発行所 インシリコバイオロジー株式会社

発行者 大山 彰

〒 231-0023 横浜市中区山下町 24 番地 8 SOHO STATION 706 号

電話 045-222-0343 Fax 045-222-0434

E-mail info@insilicobiology.co.jp

URL http://www.insilicobiology.co.jp/

©2005-2010 in silico biology, inc. 無断複写、複製を禁じます

本編最終行です。以下はメモ欄としてお使いください。

ドングルとは？	37
ドングル使用上の注意事項	38
IMC の起動と終了	39
IMC の起動	39
IMC の手動による起動	40
IMC の終了	41
IMC の Version Up	42
IMC 最新版の手動による確認とダウンロード	42
IMC 最新版の自動確認とダウンロード	43
ドングルの更新・アップグレード・製品の追加	45
ドングルライセンス更新の準備	46
Secure Update Utility のインストール	46
ドングルライセンスのアップデート期限更新	47
ドングルライセンスのアップグレード	48
ドングルへの異なる製品ライセンス追加	49
ドングル版ライセンス変更要求ファイル作成	50
Windows xp の場合	50
Mac OS X の場合	51
ドングルへのライセンスの反映	52
Windows xp の場合	52
Mac OS X の場合	52
ご質問やご意見について	54
ご質問ご意見の送付先	54
ご質問やご意見の内容について	54
トラブル発生の場合、明記いただきたい項目	54
あなたのライセンス情報	59

インストールの前に

IMC の動作環境

IMC ソフトウェアは、Windows XP および Mac OS X の環境でのみ動作します。ソフトウェア開発言語は JAVA Application です。このため実行には、JAVA Runtime Environment (JRE) が必要です。また、IMC ドングルライセンス版を購入された場合は、USB ポートのあるコンピュータにインストールする必要があり、このときドングル用ドライバーのインストールも必要となります。

ソフトウェア動作環境

OS: Windows XP/Vista/7 および Mac OS X.5 以上

必要 Memory 容量: 最低 256MB

推奨: 微生物ゲノム 512MB 以上

推奨: 真核生物ゲノム 1024MB 以上

必要ディスク容量: 最低 1 GB (データに依存)

ディスプレイサイズ (単位ピクセル)

最低 スタンダード版 700W X 720H

 ゲノミクス版 700W X 610H

 アレイ版 700W X 870H

推奨 スタンダード版 1000W X 800H

 ゲノミクスバ版 1000W X 800H

 アレイ版 1200W X 1000H

周辺機器: 2 ボタンマウス

USB ポート: 1 つを占有 (ドングルライセンスの場合)

必要ソフトウェア環境:

Java Run Time Environment Version 1.5 以上

ご質問やご意見について

ご質問ご意見の送付先

ご質問やご意見は以下のメールアドレスに送信してください。

info@insilicobiology.co.jp

このとき、メールの件名はなるべく具体的な件名にしてください。メールは自動分類されるため、件名が簡単すぎる場合は誤り分類され、回答までに時間がかかる恐れがあります。

ご質問やご意見の内容について

IMC へのご質問やご意見はなるべく具体的にご記入ください。できればデータや画面ダンプ、要望の場合はスケッチなどを添付して下さるようお願いいたします。また、回答のために必要な個人情報を記入をお願いいたします。弊社の個人情報保護規定は、ホームページ上に公開されています。

トラブル発生の場合、明記いただきたい項目

IMC に不具合が発生した場合のご質問は上記の他に、以下の項目を明記してください。

1. 使用中の IMC の Edition 名と Version 名
2. 使用中の IMC のライセンス ID (IMC 起動画面上に表示されます)
3. 使用中の PC あるいは Mac の機種名
4. 使用中の OS の Version 名
5. 実装されているメモリーサイズ
6. 指定した JavaMemory 割当サイズ
7. 使用したデータ
8. トラブル発生の際の具体的な操作手順

7. Apply Code ボタンをクリックします。
 8. Success というメッセージが表示されれば、ライセンス更新は成功です。
 9. ドングルを引き抜いても構いません。
-

パッケージに含まれる内容

インシリコモレキュラークローニングパッケージには以下のものが含まれています。

1. インストール DVD
 - ・IMC インストーラ (Windows 用と Mac 用が同梱されています)
 - ・サンプル配列データ
 - ・ドングルドライバー (浮動ライセンスのみ)
 - ・ドングル更新用プログラム (Secure Update Utility) (浮動ライセンスのみ)
2. ドングルキー (USB ポート用) 1 個 (浮動ライセンスのみ)
3. ユーザーズガイド (本紙) 1 冊

IMC のインストール手順

インストールを行う予定の PC がインストールに適合した仕様になっているかをご確認の上、インストールを実行してください。

インストール作業に必要なもの

DVD ドライブ（DVD ドライブがない場合は、弊社 HP からダウンロード可能です）。

ソフトウェアのインストールメディア

IMC ソフトウェアのインストールは IMC インストール DVD からのインストールあるいはインターネットからのダウンロードによるインストールがあります。DVD によるインストールもインターネットからのダウンロードによるインストールも、インストールされるソフトウェア機能には変わりありません。ここでは DVD によるインストール方法を説明します。

インストールからソフトウェアを起動するまでのあらすじ

インストールのあらすじを理解の上、インストールするとトラブルが少なくなります。固定ライセンスの場合には、dongle ドライバーのインストールは不要です。メニューに現れません。IMC の利用に慣れている方は、データベースのインストールの必要はありません。

浮動ライセンスの場合のインストールのあらすじ

1. インストールメニューを起動します。
2. メニューから dongle ドライバーインストールを実行します。
3. メニューから IMC 本体（in silico MolecularCloning）のインストールを実行します。
4. オプション：メニューから Microbila Protein データベースをインストールします。これは微生物ゲノムのアノテーションを行う場合だけ、インストールを実行します。
5. メニューからヘルプのインストール」を実行します。

固定ライセンスの場合のインストールのあらすじ

dongle へのライセンスの反映

in silico バイオロジー社では、そのリクエストファイルを元に dongle を更新するファイルを生成し、メールに添付して「dongle 更新用ファイル」をお送りします。このファイルを使って、dongle 上のライセンス情報を書き換えることができます。

Windows xp の場合

Secure Upgrade Utility を使って、ライセンスを dongle に反映させます。

1. メールに添付されてきたファイルを適当な場所に保存します。
2. dongle を USB ポートに差し込みます。
3. LED が点灯することを確認します。
4. Secure Update Utility を起動します。
5. Update Hardware key のファイル参照ボタンをクリックします。
6. 表示されるファイル選択ダイアログを利用して、メールに添付されてきた dongle 更新用ファイルを選択します。
7. Apply Code ボタンをクリックします。
8. Success というメッセージが表示されれば、ライセンス更新は成功です。
9. dongle を引き抜いても構いません。

Mac OS X の場合

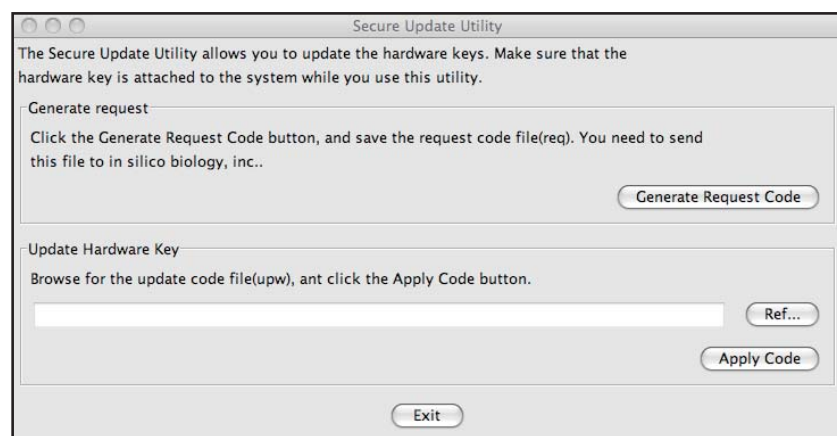
Mac 用の Secure Update Utility を使って、ライセンスを dongle に反映させます。

1. メールに添付されてきたファイルを適当な場所に保存します。
2. dongle を USB ポートに差し込みます。
3. LED が点灯することを確認します。
4. Secure Update Utility.command を起動します。
5. Update Hardware key のファイル参照ボタンをクリックします。
6. 表示されるファイル選択ダイアログを利用して、メールに添付されてきた dongle 更新用ファイルを選択します。

Mac OS X の場合

Secure Upgrade Utility を使って、ライセンス要求ファイルを作成します。

1. アプリケーションズ /imc_xx/bin にある SecureUpdateUtility.command をクリックします。
2. すると SecureUpdateUtility が起動し、その画面が表示されます。



3. ドングルを USB ソケットに挿入します。
4. Generate request 欄の「Generate Request Code」ボタンをクリックします。
5. ファイル選択ダイアログが開くので、ファイル名（任意ですが、ガイドラインのようなファイル名がお勧めです。L9999999 はライセンス ID で、起動画面で確認可能です。）を指定し、保存ボタンをクリックします。

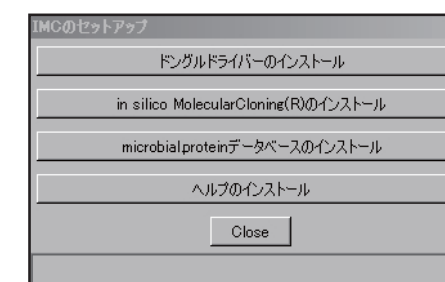
L9999999_IMCGD_20090707.req

6. 保存されたファイルをメールに添付し、以下のアドレスに送信します。
7. 営業時間内であれば、しばらくすると「ライセンス更新用ファイル」がインシリコバイオロジー社から返送されます。

1. インストールメニューを起動します。
2. メニューからドングルドライバーインストールを実行します。
3. メニューから IMC 本体 (in silico MolecularCloning) のインストールを実行します。
4. オプション：メニューから Microbila Protein データベースをインストールします。これは微生物ゲノムのアノテーションを行う場合だけ、インストールを実行します。
5. メニューからヘルプのインストール」を実行します。

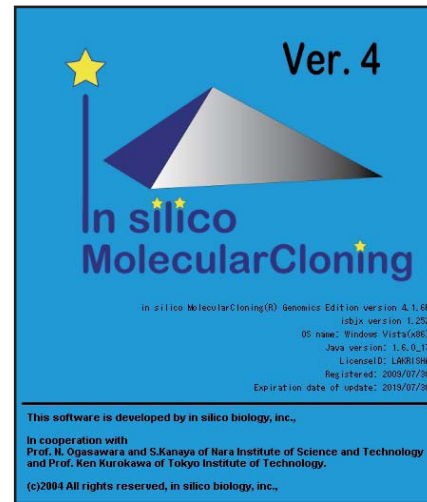
IMC 本体のみをインストールする場合

1. DVD をドライブに挿入します
2. Windows の場合は、インストールメニュープログラムが自動的に起動します。
3. Mac の場合は、DVD から Mac 用のインストールファイルをデスクトップなどにコピーし、解凍してダブルクリックします。
4. このメニューから、4 種（固定版では 3 種）のインストールが可能です。IMC ソフトウェア本体や、ドングルドライバー（浮動ライセンスのみ）、ヘルプ、参照データベースなどをインストールすることができます。



5. IMC 本体のインストールを例にとり、説明します。
6. 「in silico MolecularCloning のインストール」をクリックします。
7. すると IMC のインストーラが起動されます。
8. 仕様許諾契約書に「同意する」をクリックします（同意しない場合はインストーラプログラムが終了します）。
9. ユーザ情報を入力します。
10. IMC ソフトウェアインストール先ディレクトリを指定します（指定しない場合は、それぞれ以下のフォルダーにインストールされます）。
 - C:\Program Files\isb\imc (Windows xp, IMC SE の場合)
 - Applications\imc (Mac OS X, IMC SE の場合)
11. 要求にしたがって、Java Memory Size を入力します。

12. IMC ソフトウェアのインストールが完了します。
13. ドングルドライバーをインストールします。
14. USB ポートに dongle を挿入、デスクトップ上の IMC アイコンをダブルクリックします。
15. 1IMC が起動し、IMC のスタートウィンドウが表示されます。



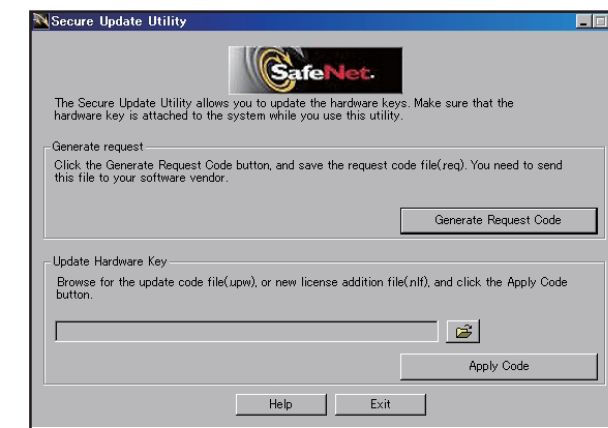
dongle 版ライセンス変更要求ファイル作成

dongle 版のライセンスの更新期限を延長したり、ライセンスをアップグレードしたり、あるいは IMC 以外の弊社アプリケーションを追加登録する場合には、以下の操作を行い、ライセンス変更要求ファイルを作成します。作成されたファイルをメールで弊社宛て送信することにより、ライセンス変更が可能となります。

Windows xp の場合

Secure Upgrade Utility を使って、ライセンス要求ファイルを作成します。

1. スタートメニュー → すべてのプログラム → in silico biology, inc. → SecureUpdateUtility.exe をクリックします。
2. すると SecureUpdateUtility が起動し、その画面が表示されます。



3. Dongle を USB ソケットに挿入します。
4. Generate request 欄の「Generate Request Code」ボタンをクリックします。
5. ファイル選択ダイアログが開くので、ファイル名（任意ですが、ガイドラインのようなファイル名がお勧めです。L9999999 はライセンス ID で、起動画面で確認可能です。）を指定し、保存ボタンをクリックします。

L9999999_IMCGD_20090707.req

6. 保存されたファイルをメールに添付し、以下のアドレスに送信します。
7. 営業時間内であれば、しばらくすると「ライセンス更新用ファイル」がインシリコバイオロジー社から返送されます。

dongleへの異なる製品ライセンス追加

IMC 以外のインシリコバイオロジー社製品のライセンスを1つのdongle上に合計5製品まで登録することができます。

たとえば、現在のIMCのライセンス以外に、TaxiSpiderのライセンスを追加登録すると、そのdongleを差し込んだPCあるいはMacでは、IMCとTaxiSpiderの両方のソフトウェアを起動することができます。

dongleとは？

dongleはIMCのライセンスを管理するためのハードウェアキーです。dongleはUSBメモリーのような形状をもち、PCやMacのUSBソケットに差し込んで使用します。下の写真は、インシリコバイオロジー社が採用しているdongle (SafeNet Sentinel Hardware Key) の概観です。



浮動ライセンスでは、このdongleをライセンス認証機器として使用します。このため、IMCの起動から終了の間、USBポートの1つに差し込まれている必要があります。また、IMCのVersion Upの場合、さらに、IMCのライセンス更新する場合にも、必要となります。

dongle 使用上の注意事項

dongle は IMC のライセンスを管理するためのハードウェアキーです。

1. このライセンス方式を採用しているプログラムは、その起動から終了の間、USB ポートの1つに差し込まれている必要があります。
2. また、IMC の Version Up の場合、さらに、IMC のライセンス更新する場合にも、必要となります。
3. dongle が動作するには、dongle ドライバーのインストールが必要となります。
4. dongle の更新には、「Secure Update Utility」のインストールが必要です。
5. dongle は Windows と Mac の両方で使用できます。すなわち、Windows と Mac の両方に IMC をインストールしておき、dongle を交互に差し換えることにより、1つのライセンスで Windows と Mac の両方で IMC を使うことができます。
6. プログラムが起動から終了までの間では、dongle を引き抜かないようにしてください。誤って、途中で引き抜いた場合、致命的なエラーが発生する場合があります。
7. dongle ライセンスを使用しているプログラムが起動する前、および終了後は、いつでもdongle を USB ポートから引き抜くことができます。この場合、dongle の LED が点灯していてもかまいません。
8. USB Hub 経由で接続しても構いませんが、USB Hub の使用条件を確認してください。
9. dongle を USB ポートに差し込むと緑色の LED が点灯します。これが消えている場合は、dongle が認識されていない状態を示します。多くは、dongle のドライバーが正しくインストールされていないために発生します。

dongle ライセンスのアップグレード

現在使用中の IMC 製品より上位の IMC 製品にアップグレードすることができます。この場合も、dongle を送り返す必要なしに、ライセンスを延長更新することができます。アップグレードの手順は、前項の「dongle ライセンスの更新」と同じです。

IMC のアップグレードには、以下のものがあります。

1. スタンダード版からゲノミクス版へのアップグレード
2. スタンダード版からアレイ版へのアップグレード
3. ゲノミクス版からアレイ版へのアップグレード

dongle ライセンスのアップデート期限更新

アップデート期限が超過した場合でも、dongle を送り返す必要なしに、ライセンスを延長更新することができます。

以下に、dongle に登録されているライセンスの更新・登録ソフトウェアの追加手順を説明します。

1. **Secure Update Utility** を起動し、USB ポートに dongle を差し込み、ライセンス要求ファイルを生成します。
2. 生成されたライセンス要求ファイルをメールに添付し、インシリコバイオロジー社の以下のアドレスに送付します。

license@insilicobiology.co.jp
3. インシリコバイオロジー社からライセンス更新ファイルがメールに添付されて返信されます。
4. **Secure Update Utility** を起動し、USB ポートに dongle を差し込み、ライセンス更新ファイルを指定してライセンス更新プロセスを実行します。
5. 以上で dongle 上に記録されたライセンス情報が書き換えられます。以後、新しいライセンスで **IMC** を実行することができます。

上記の操作は、**IMC** がインストールされているどの PC や Mac 上で実行しても構いません。ライセンス情報は dongle にのみ書き込まれ、PC や Mac の本体には書き込まれません。

dongle ドライバーのインストール

dongle ライセンスの場合は、dongle ドライバーのインストールが必要となります。dongle ドライバーはインストール DVD に含まれており、**IMC** のインストールに先立って dongle ドライバーのインストールを実行する必要があります。

固定ライセンスの場合は、dongle ドライバーのインストールは不要です。

Windows xp の場合

Windows 用 dongle ドライバーのインストーラは **CDROM** およびインストール後は通常以下のディレクトリーに **Sentinel System Driver Installer 7.5.x** という名称で保存されています。

C:\Program Files\isb\imc\driver\win



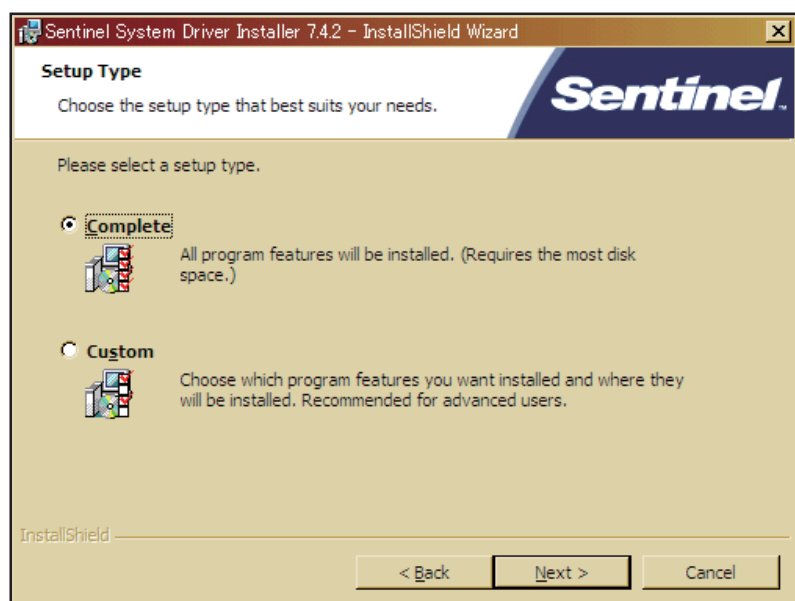
1. このファイルをダブルクリックすると、dongle ドライバーのインストーラが起動され、インストーラのウィンドウが表示されます。



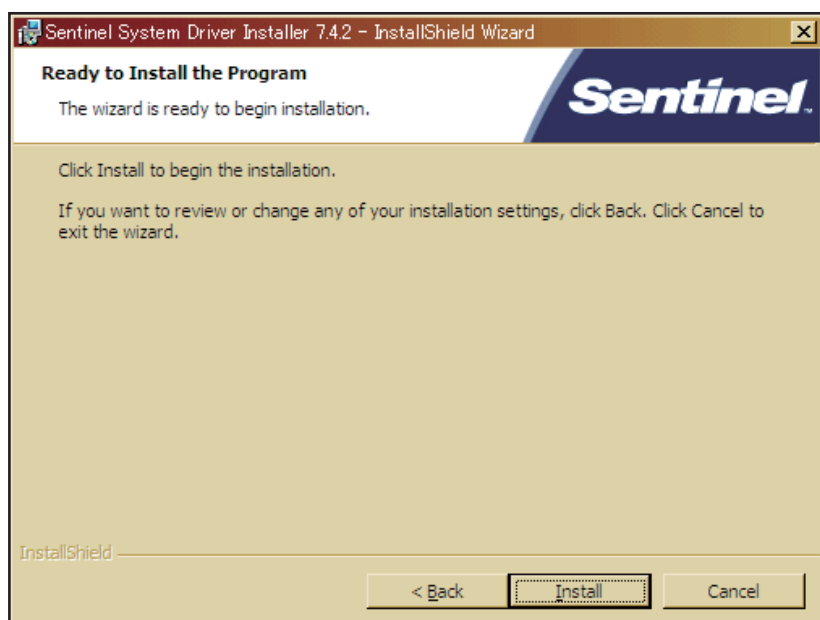
2. **Next** ボタンをクリックすると、**License Grant/Warranty for Software** (ソフトウェア使用許諾書) が表示されるので、「**I accept the terms in the license agreement**」をオンにして、**Next** ボタンをクリックします。

I do not accept the terms in the license agreement

3. 次に、セットアップタイプを選択します。通常は「Complete」をオンにして、Next ボタンをクリックします。



4. インストールボタンをクリックすると、ここからインストールが実行開始となります。



5. ドライバーがインストールされると完了ウィンドウとなります。

ドングルライセンス更新の準備

Secure Update Utility のインストール

Windows xp の場合

Secure Update Utility は、IMC パッケージに含まれています。IMC をインストールすると同時に、Secure Update Utility もインストールされます。Secure Update Utility がインストールされるディレクトリーは以下のとおりです。

c:\Program Files\isb\imc_xx\Secure Update Utility\win\Secure Update Utility

実行ファイル名は以下の通りです。

SecureUpdateUtility.exe

Mac OS X の場合

Secure Update Utility は、IMC パッケージに含まれています。IMC をインストールすると同時に、Secure Update Utility が保存されます。Secure Update Utility が保存されるディレクトリーは以下のとおりです。

/Applications/imc_xx/Secure Update Utility/mac/Secure Update Utility.tar.gz

このファイルは圧縮ファイルであるため、インストールはこのファイルを解凍する必要があります。解凍は、上記の Secure Update Utility.tar.gz をダブルクリックすることで実行できます。

dongleの更新・アップグレード・製品の追加

ライセンス更新が必要なケース

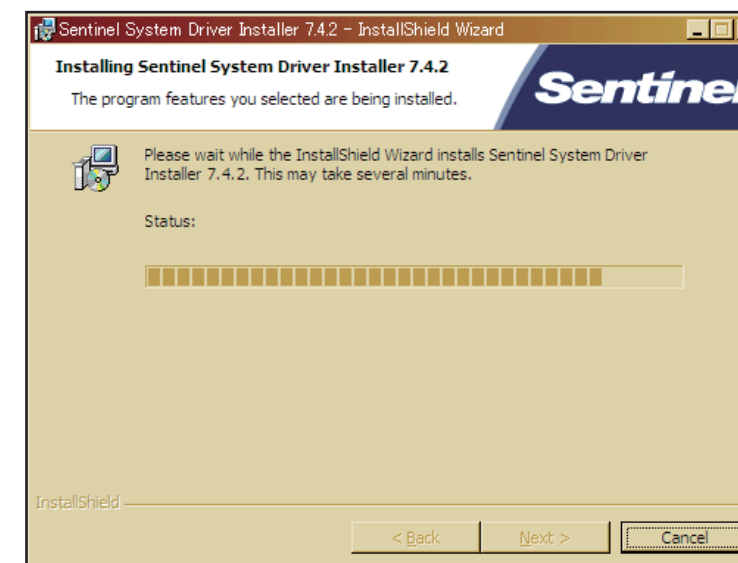
ライセンスの更新が必要な場合は以下のとおりです。

1. ライセンス購入後 1 年以上経過し、かつ IMC の同一エディションの最新の Version をダウンロード、インストールしたいとき。
2. IMC のエディションを上位製品にアップグレードしたいとき。
3. IMC 以外のインシリコバイオロジー社製品を、同じ dongle 上に追加登録したいとき。

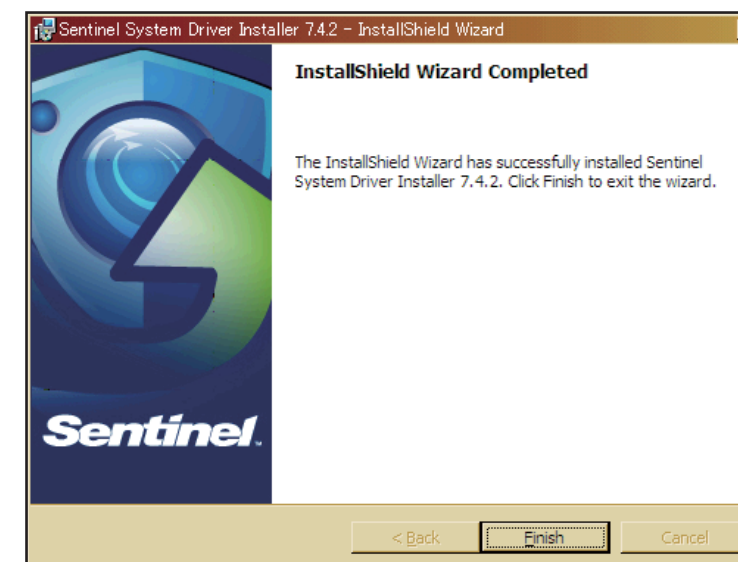
ライセンス更新手続きのあらまし

ライセンス更新が必要となった場合は、以下の手続きが必要です。

1. Secure Update Utility のインストール
2. Secure Update Utility を起動し、ライセンス更新要求ファイルを生成
3. 生成されたファイルをインシリコバイオロジー社にメールで送付
4. インシリコバイオロジー社からライセンス更新用ファイルがメールで返信
5. Secure Update Utility を起動し、ライセンス更新用ファイルを使って dongle の更新を実行。



6. 「Finish」をクリックして、インストーラを閉じます。



Mac OS X の場合

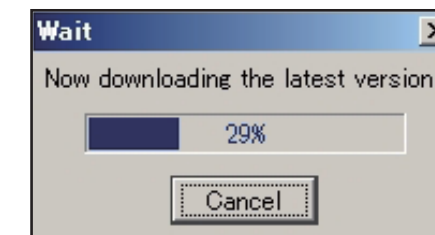
Mac 用 dongle ドライバーのインストーラは DVD に含まれています。IMC 本体のインストールより先に実行してまいります。インストール後は通常以下のディレクトリに SentinelSystemDriver.tar.gz という名称で保存されています。

Applications\imc\driver\mac

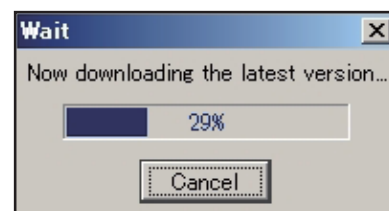
1. このファイルをダブルクリックすると、dongleドライバーのインストーラパッケージが展開生成されます。
2. この pkg ファイルをダブルクリックするとインストーラが起動します。Windows と画面が異なりますが、同一の内容を設定し、インストールすることができます。
3. 「続ける」ボタンをクリックすると、License Grant/Warranty for Software (ソフトウェア使用許諾書) が表示されるので、「I accept the terms in the license agreement」をオンにして、Next ボタンをクリックします。
3. 次に、セットアップタイプを選択します。通常は「Complete」をオンにして、Next ボタンをクリックします。
4. インストールボタンをクリックすると、ここからインストールが実行開始となります。
5. ドライバーがインストールされると完了ウィンドウとなります。「Finish」をクリックして、インストーラを閉じます。



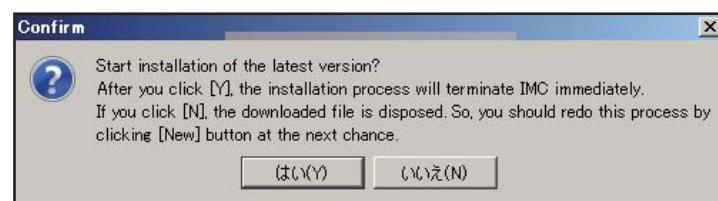
1. OK ボタンをクリックすると、最新 Version のダウンロードが開始されます。



2. 以降は手動確認の場合と同様の操作を行います。



8. IMC のインストールを実行するかどうかを尋ねられます。



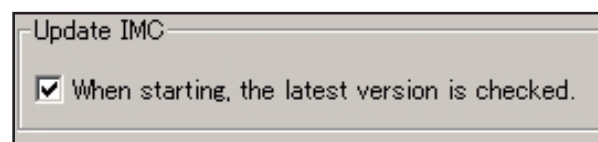
9. 「はい (y)」 ボタンをクリックします。

10. IMC のインストールが開始されます。以降は、通常のインストール方法と同様です。

IMC 最新版の自動確認とダウンロード

最初に一度だけ、以下の設定を行います。

1. IMC を起動します。
2. Option 設定ボタン  をクリックします。
3. Setup タブ  をクリックします。
4. Setup タブペイン上の Update IMC にチェックします。



5. Apply ボタンをクリックします。

この設定を行った時以降に、IMC を起動したときに現在使用している IMC の Version より新しい Version がリリースされている場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

IMC 本体のインストールの実行 (Windows)

上記手順を再度ご確認ください。インストールを実行してください。

DVD からのインストール

IMC インストール DVD を DVD ドライブに挿入します。

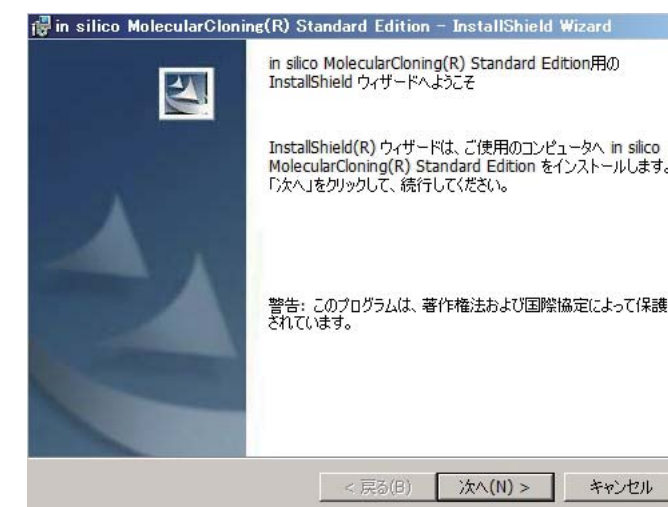
インストールメニューが表示されます。



起動されるメニューから「in silico MolecularCloning のインストール」をクリックします。

インストーラの起動

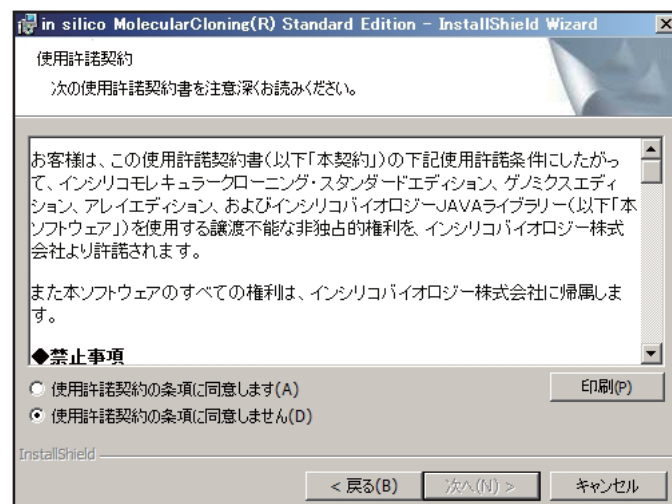
すると自動的にインストーラープログラムが起動されますので、その質問に答えていきます。



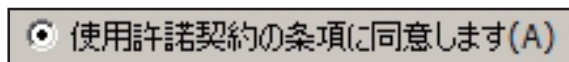
この画面では「次へ (N)」をクリックします。

IMC ソフトウェア使用許諾契約への同意

つぎに、インストール画面は IMC ソフトウェアの使用許諾契約書の文面を表示します。



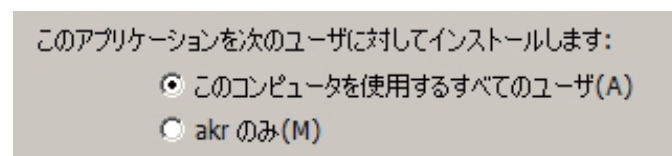
これをよくお読みになり（印刷ボタンをクリックすると印刷も可能です）、契約に同意する場合は、「同意する」ボタンをクリックしてください。



インストールが実行されます。「同意しない」ボタンをクリックされた場合は、インストールは途中終了してしまい、インストールは行われません。誤って、「同意しない」をクリックされた場合は、もう一度最初からインストール作業を行ってください。

ユーザ情報の入力

次に、ユーザ情報を入力します。入力が必要な情報は、ユーザ名称、所属、およびこのユーザのみがアプリケーションを使用するか、すべてのユーザが使用するかの選択です。




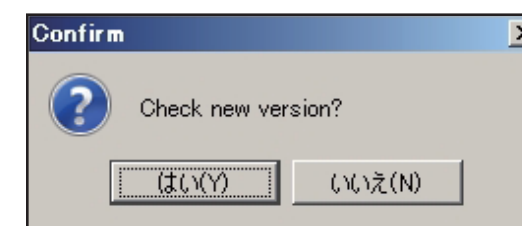
IMC の Version Up

ライセンスのアップデート期限内の場合は、いつでも最新の IMC Version をダウンロード・インストールすることが可能です。

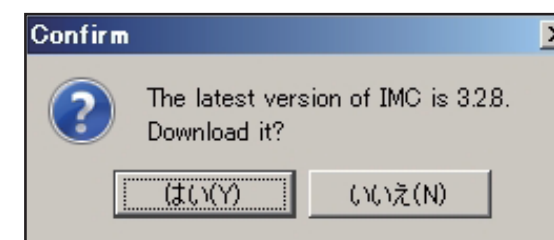
IMC 最新版の手動による確認とダウンロード

以下の手順を、IMC の最新版がリリースされているかどうかを確認したい度に行います。Windows と Mac で操作方法は同様です。若干ウィンドウの形態が異なるだけです。

1. IMC を起動します。
2. New ボタン  をクリックします。
3. 最新版がリリースされているかをチェックするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。



4. 「はい(Y)」をクリックします。
5. 最新版が存在している場合は、それをダウンロードするかどうかを尋ねられます。



6. OK ボタンをクリックします。
7. IMC のダウンロードが開始されます。

4. IMC を起動するためのコマンドを入力します。

```
>java -Xmx1000mx -jar ImcLauncher.jar
```

Mac OS X の場合

1. ターミナルを起動します。

2. ターミナルのコマンドラインから操作します。

3. IMC がインストールされているディレクトリに移動します。

```
>cd Applications/imc_xx/bin
```

4. IMC を起動するためのコマンドを入力します。

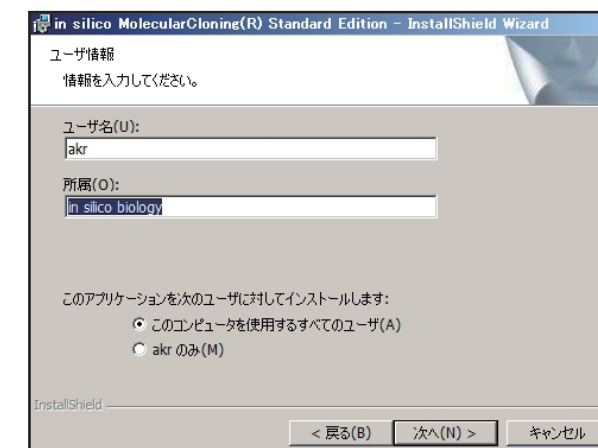
```
>java -Xmx1000mx -jar ImcLauncher.jar
```

IMC の終了

1. メニューバーから File → Exit を選択します。

2. 確認メッセージが表示されますので、OK をクリックします。

3. IMC は終了します。



画面は上の通りです。

インストールディレクトリの指定

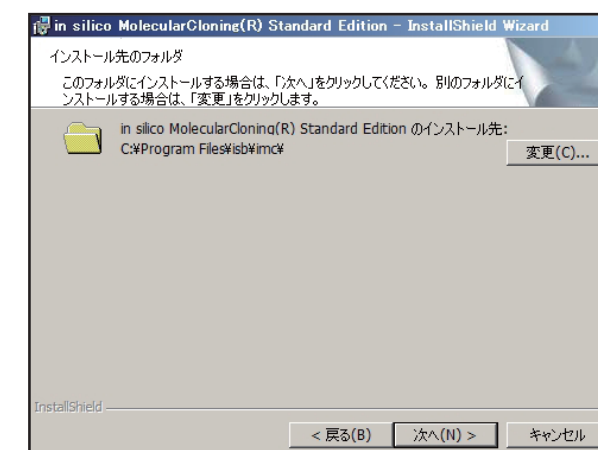
IMC ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定します。指定ディレクトリ以下に必要なファイルが作成されます。デフォルトでは、以下のディレクトリ・フォルダーが IMC ソフトウェアホームディレクトリとなっています。日本語 Windows では、「\」は「¥」と表示されます。

IMC SE(Windows xp) の場合： C:\Program Files\isb\imc

IMC GE(Windows xp) の場合： C:\Program Files\isb\imc_ge

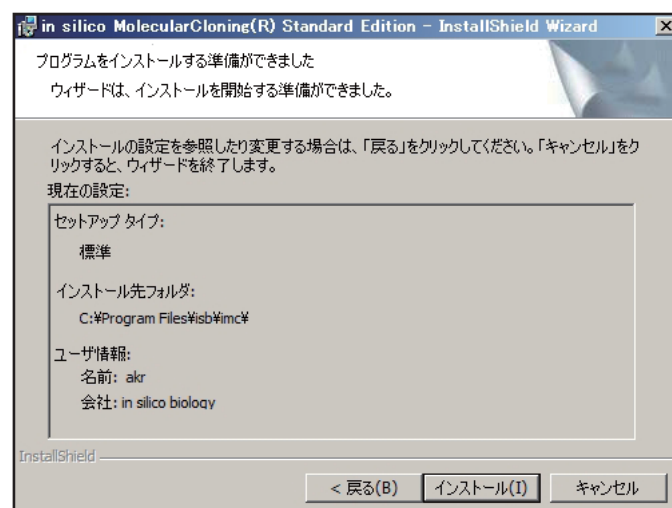
IMC AE(Windows xp) の場合： C:\Program Files\isb\imc_ae

デフォルトのままであれば、「次に」をクリックします。



デフォルトディレクトリと異なるディレクトリを IMC ソフトウェアのホームディレクトリとしたい場合は、参照ボタンをクリックし、続いて表示されるファイル選択画面からディレクトリを指定してください。これでインストールの準備が完了し

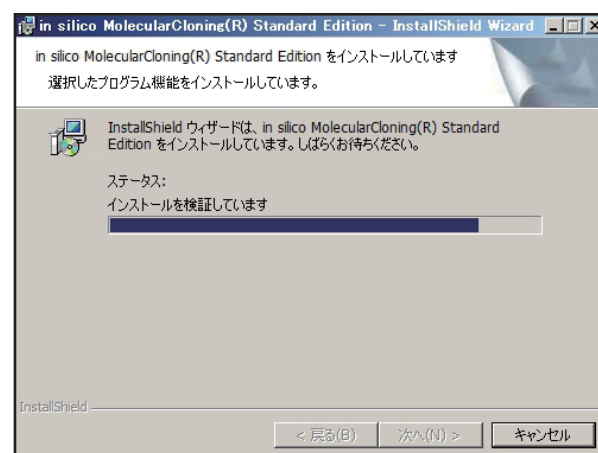
ます。確認画面に設定項目が表示されます。



設定項目に変更がなければ「インストール」ボタンをクリックします。

インストールの実行開始

インストールが開始されます。インストール中は下のメッセージが表示されます。



Java Memory Size の入力

インストール中に Java が必要とするメモリーサイズを指定します。このサイズは、コンピュータに実装されているメモリーの大きさを超えないようにします。入力単位は、MB（メガバイト）です。

対処：インシリコバイオロジー社にメールで対処方法を聞く。

原因 2：Java がインストールされていない。

対処：Java の RTE をインストールする。

原因 3：ライセンスファイルが所定の場所がない。

対処：IMC のライセンスを取得する

原因 4：ライセンスがない

対処：IMC のライセンスを取得する

原因 5：試用ライセンスの場合、試用ライセンスの試用期限が過ぎている。

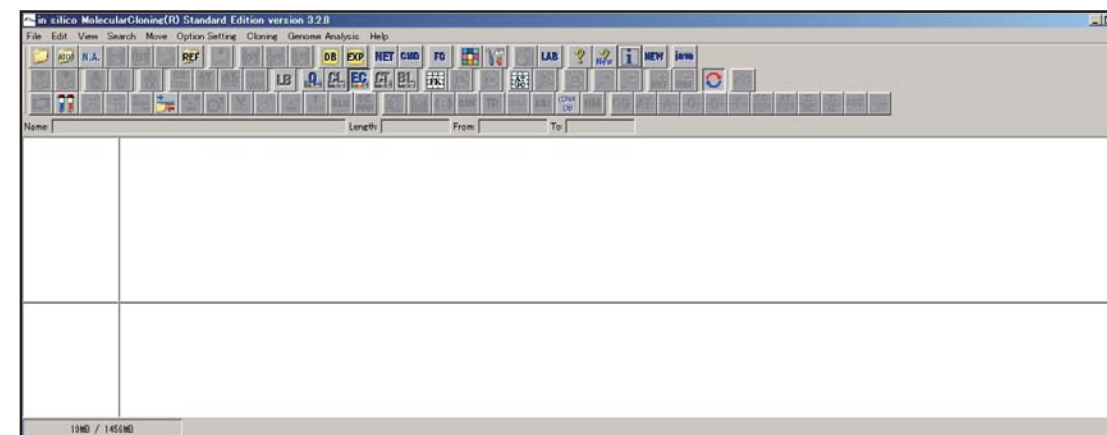
対処：IMC の正規ライセンスを取得する

原因 6：他の画面の裏に隠れている

対処：他の画面を動かして、IMC の起動画面が見えるようにする。

4. 初期画面をクリックします。

5. すると、IMC のメイン画面が表示されます。



IMC の手動による起動

Windows xp の場合

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. コマンドプロンプトのコマンドラインからコマンドを入力して操作します。
3. IMC がインストールされているディレクトリに移動します。

```
>cd c:\Program files\isb\imc_xx\bin
```

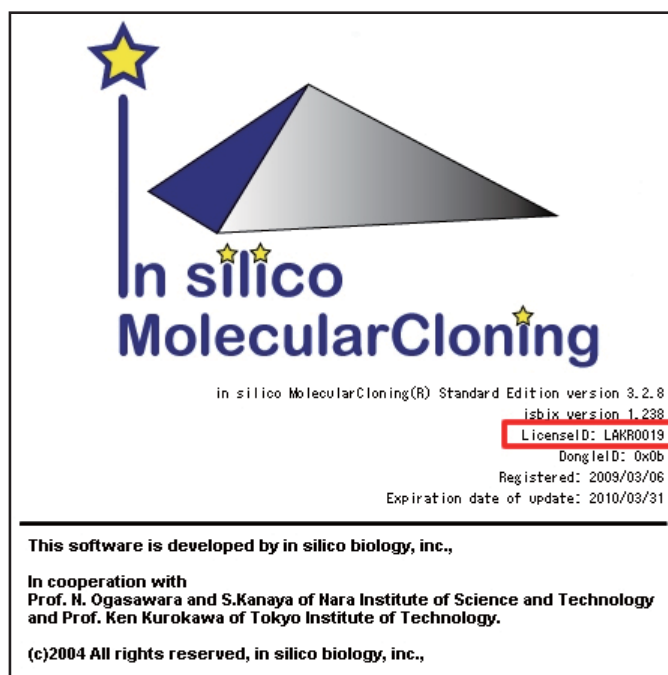
IMC の起動と終了

IMC の起動

1. ドングルを USB ポートに差し込みます。
2. デスクトップアイコンをダブルクリックします。ドングルを差し込んでない場合は、以下のメッセージが表示されるので、ドングルを差し込んでから再度 IMC アイコンをダブルクリックします。

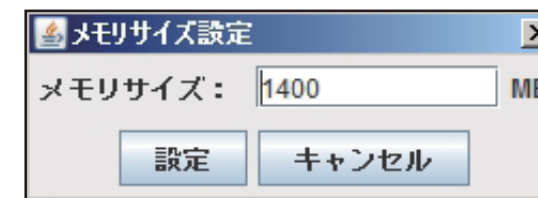


3. すると以下の IMC 初期画面が表示されます。

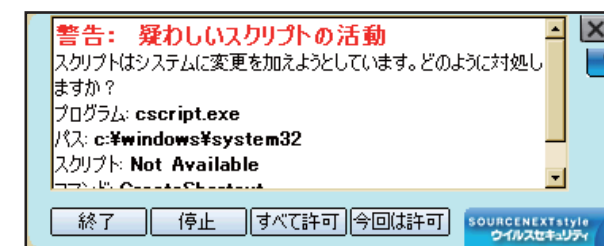


4. IMC 初期画面が表示されない場合は、以下のようなケースが考えられます。

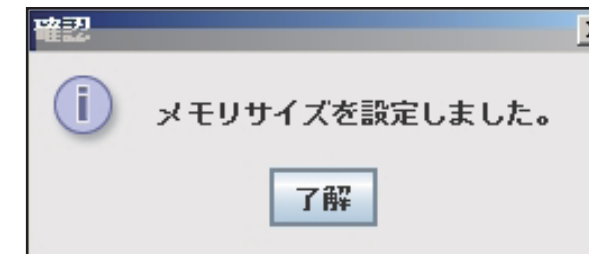
原因 1: IMC のインストールがうまくいっていない。



この前後で、使用されているウイルスチェックソフトウェア等から警告メッセージが表示されることがあります。その場合は、一時的に許可をします。



このメッセージや操作方法はウイルスチェックソフトウェアの種類により異なりますので、詳しくはウイルスチェックソフトウェアの説明をご覧ください。メモリー設定が完了すると下のメモリー設定完了メッセージが表示されます。




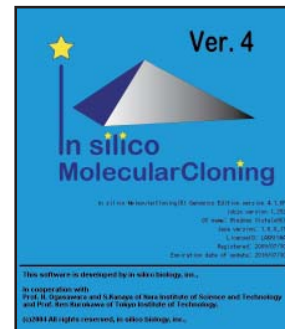
固定ライセンスの場合は、ここでライセンス要求ダイアログが表示されます。浮动ライセンスの場合は、ライセンス要求ダイアログは表示されません。

IMC のインストール完了

これで、IMC のインストールは終了します。

IMC の起動

デスクトップ上に IMC のアイコン  が表示されているので、ドングルを USB ポートに差し込んでから、IMC のアイコンをダブルクリックしてください。IMC が起動します。



7. プログラムの削除が開始されます。

Mac OS X の場合

プログラムがインストールされているフォルダー以下をすべて「ゴミ箱」に入れます。

スタンダード版の場合は、以下のフォルダー以下全部

`/Applications/imc`

ゲノミクス版の場合は、以下のフォルダー以下全部

`/Applications/imc_ge`

アレイ版の場合は、以下のフォルダー以下全部

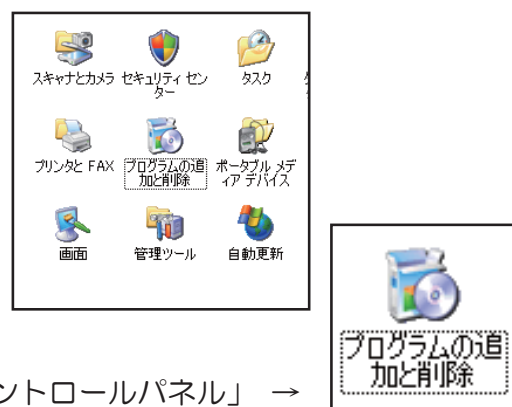
`/Applications/imc_ae`

IMC のアンインストール方法

Windows と Mac ではアンインストール方法が異なります。それぞれの OS でのアンインストールを行ってください。

Windows xp の場合

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を使って、IMC のアンインストールを行います。



1. 「スタート」 → 「コントロールパネル」 → 「プログラムの追加と削除」をクリックします。
2. すると、「プログラムの追加と削除」ウィンドウが開きます。
3. 「プログラムの追加と削除」ボタンをクリックします。
4. すると、現在インストールされているプログラムのリストが表示されます。



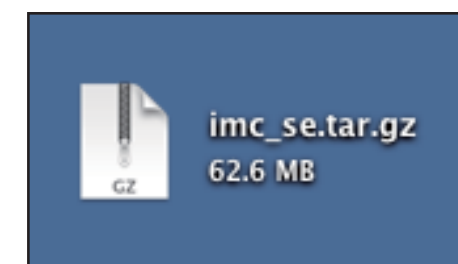
5. その中から、in silico MolecularCloning(R) XXX Edition という項目をクリックします。
6. すると、「変更と削除」というボタンが表示されるので、それをクリックします。

IMC 本体のインストールの実行 (Mac OS の場合)

Mac OS の場合は、以下のようにインストールを実行してください。

インストールメニューからのインストール

IMC インストール DVD を DVD ドライブに挿入します。インストール DVD を開き、mac というフォルダーの中にある imc_XX.tar.gz (XX には se, ge, ae の文字が入り、それぞれ Standard Edition, Genomics Edition, Array Edition のインストーラであることを示す) をデスクトップなどに保存します。

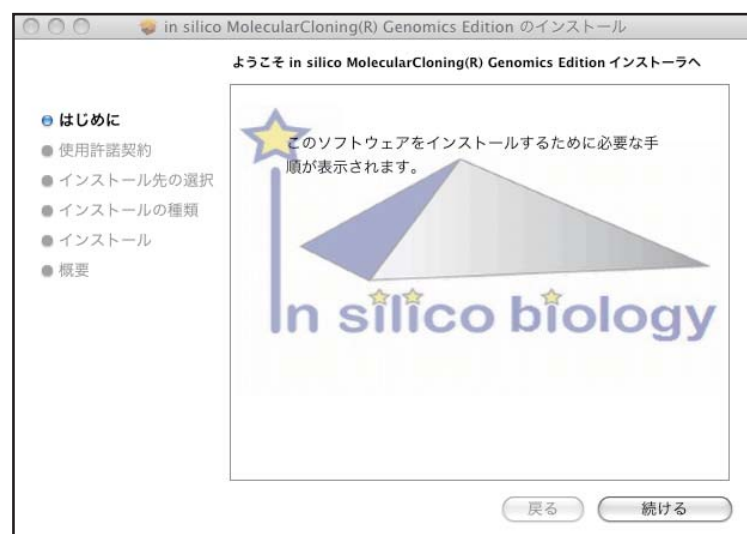


保存した imc_XX.tar.gz をダブルクリックします。すると、圧縮ファイルが展開され pkg ファイルが生成されます。そのアイコンをダブルクリックします。



すると、インストールメニューが表示されます。

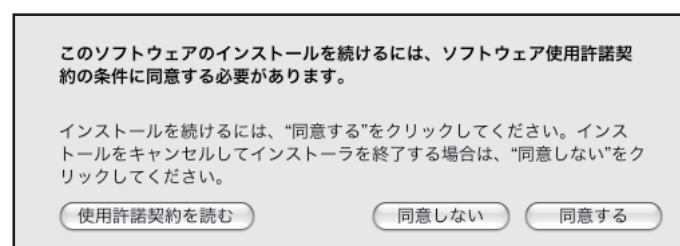




続けるをクリックします。

IMC ソフトウェア使用許諾契約への同意

つぎに、インストール画面は IMC ソフトウェアの使用許諾契約書の文面を表示します。続けるをクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、使用許諾契約書に同意する、同意しない、使用許諾契約書を読むなどのボタンが表示されます。



これをよくお読みになり（印刷ボタンをクリックすると印刷も可能です）、契約に同意する場合は、「同意する」ボタンをクリックしてください。

64bit OS を使用する場合

Windows xp の場合

Windows xp 64-bit の場合は、従来の 32-bit の OS が約 2GB までの Java Memory しか割り当てることができなかったのに対し、現在のところ 128GB までの実装メモリーを利用することができます。

インストール方法は、32-bit と同様ですが、インストール先のドライブを選択する必要がある場合は、c:\Program Files ディレクトリを指定してください。c:\Program Files (x86) を指定すると、IMC を起動できない可能性があります。もし、誤って、c:\Program Files にインストールした場合は、IMC をアンインストールし、再度最初からインストールしてください。

Mac OS X の場合

Windows xp 64-bit の場合は、従来の 32-bit の OS が約 2GB までの Java Memory しか割り当てることができなかったのに対し、現在のところ 128GB までの実装メモリーを利用することができます。

インストール時に、IMC インストーラが自動的に 32-bit か 64-bit かを判定し、それぞれの適した設定を行いますので、利用者はこの違いを意識する必要はありません。

ている物理メモリー量を下記の「赤字部分」ように、修正します。下のケースは PC が 512MB 以上の物理メモリーを持っている場合です。1024MB 以上ある場合は、-Xmx1024m のように変更します。

```
C:\WINDOWS\system32\javaw.exe -Xmx512m -jar "C:\Program Files\isb\imc\bin\ImcLauncher.jar"
```

5. 変更後、OK ボタンをクリックすれば完了です。

注意：現在のところ、JRE 1.4.2 では最大 1222MB まで、JRE 1.5.0(5.0) では最大 1408MB しか使えません。これを超えたメモリーサイズを設定しようとすると、IMC が起動しません。1222MB あるいは 1408MB 以下に設定してください。

注意：ただし、これは PC のメーカーや機種により異なりますので、詳しくはご利用の PC の説明書を参照ください。64-bit マシンではこの制限はなくなります。

Mac OS X の場合

メモリーを増やすには、以下のファイルを編集します。

1. Applications/imc/bin/imc_se.app/Contents というフォルダーの下に、Info.plist というファイルがあります。このファイルは管理者権限で編集する必要があります。
2. このファイルのメモリーを設定している箇所の数値を変更します。

```
<string>-Xmx1024m</string>
```
3. 上に示す行の数値部分がメモリーサイズを示しています。これを直接変更します。この数値が上の例のように 1024m の場合は 1024MB までの Java メモリーが割当られることを示します。



インストールが続行しされます。「同意しない」ボタンをクリックされた場合は、インストールは途中終了してしまい、インストールは行われません。誤って、「同意しない」をクリックされた場合は、もう一度最初からインストール作業を行ってください。

インストールディレクトリの指定

次に表示される以下の画面では、IMC ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定します。



指定ディレクトリ以下に必要なファイルが作成されます。デフォルトでは、以下のディレクトリー・フォルダーが IMC ソフトウェアホームディレクトリとなっています。

IMC SE の場合は: Applications\imc

IMC GE の場合は: Applications\imc_ge

IMC AE の場合は: Applications\imc_ae

デフォルトのままでは、「次に」をクリックし、デフォルトディレクトリと異なるディレクトリを IMC ソフトウェアのホームディレクトリとしたい場合は、参照ボタンをクリックし、続いて表示されるファイル選択画面からディレクトリを指定してください。



これでインストールの準備が完了します。



手動で Java メモリ割当設定を変更する方法

Windows と Mac では変更方法が異なります。

IMC の最新版をダウンロードインストールするたびにデフォルト値に戻りますので、そのたびに Java Memory 割当を変更してください。また Java Run Time Enviroment の更新によっても、デフォルト値に戻ります。

Windows xp の場合

デスクトップ上のショートカットに設定します。



1. デスクトップに表示されている IMC へのショートカットをマウスで右クリックします。
2. すると、IMC の「プロパティ」画面が表示されますので、「ショートカット」タブをクリックします。



3. リンク先の内容は以下のようにになっています (インストールされたディレクトリによって、表示される内容は多少異なる場合があります)。

```
C:\WINDOWS\system32\javaw.exe -Xmx256m -jar "C:\Program Files\isb\imc\bin\ImcLauncher.jar"
```

4. 上記の「javaw.exe」の直後の数値 (256) を。両側を空白にして、PC が持つ

8. 「Java Memory Size Changed」というメッセージが表示されます。
9. 「了解」をクリックします。
10. これで、Java メモリー設定は完了です。

Mac OS X の場合

1. 管理者権限でログインします。
2. フォルダ「/Applications/imc_xx/bin」の下にある、memset.command をダブルクリックします (xx は GE, AE あるいはなし)
3. Java メモリー割当変更ユーティリティが実行され、変更するメモリー数値を入力するためのダイアログが表示されます。
4. 実装メモリーサイズを最大値として、Java メモリー割当サイズを入力し、「セット」ボタンをクリックします。
5. Java メモリー割当設定完了メッセージが表示されます。
6. 「OK」ボタンをクリックします。
7. メモリー設定が変更され、ユーティリティが終了します。
8. 管理者権限利用者からログオフします。

インストールの実行開始

インストールボタン **インストール** をクリックすると、管理者用パスワードの入力が促されます。



インストールが開始されます。

Java Memory Size の入力

インストール中に Java が必要とするメモリーサイズを指定します。このサイズは、コンピュータに実装されているメモリーの大きさを超えないようにします。入力単位は、MB (メガバイト) です。



この前後で、使用されているウィルスチェックソフトウェア等から警告メッセージが表示されることがあります。

その場合は、一時的に許可をします。このメッセージや操作方法はウィルスチェックソフトウェアの種類により異なりますので、詳しくはウィルスチェックソフトウェアの説明をご覧ください。



メモリー設定が完了すると上のメモリー設定完了メッセージが表示されます。



IMC 本体のインストール完了

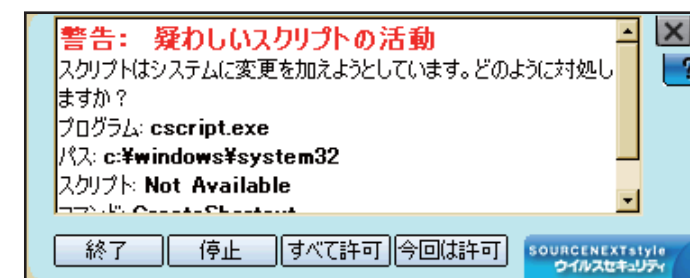
これで、IMC 本体のインストールは終了します。

Java メモリー変更ユーティリティを使用する方法

Windows と Mac では変更方法が異なります。

Windows xp の場合

1. IMC を一旦終了させます。
2. スタートメニューから「すべてのプログラム (P)」 --> 「in silico biology, inc.」 --> IMCxx (ここで xx は SE, GE, AE のうちいずれか) を選択、最後のメニューで「IMC Memory Setting」を選択します。
3. すると、Java メモリー割当変更ユーティリティが起動します。



4. ウィルスチェックプログラムなどがインストールされている場合は、それらのソフトウェアからの警告メッセージが表示される場合があります。警告メッセージが表示された場合は、「一時的にスクリプトの実行を許可する」などを選択し、一時的に Java メモリー割当変更ユーティリティの実行を許可します。
5. Java Memory 変更ウィンドウが表示されます。



6. 変更したいサイズに Java メモリー割当を入力し、「設定」ボタンをクリックします。
7. この後、ウィルスチェックプログラムからの警告メッセージが表示される場合がありますが、同様に「一時的にスクリプトの実行を許可する」などの対応をします。

Java メモリー割当の変更

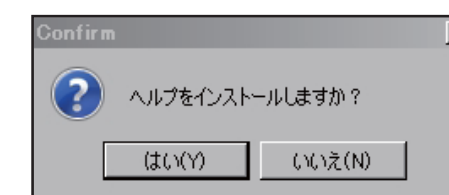
添付のメモリーサイズ変更ユーティリティによる方法と、手動で編集する方法があります。また、インストール時にも、同じユーティリティが自動的に実行され、メモリーサイズを変更することができます。

ヘルプのインストール

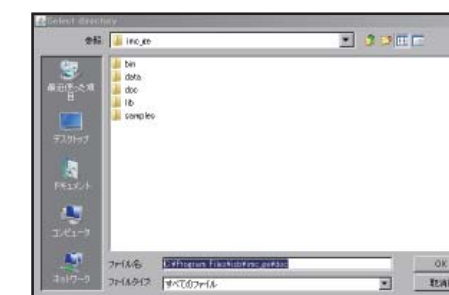
ヘルプのインストールは、インストールメニューから「ヘルプのインストール」をクリックすると実行できます。



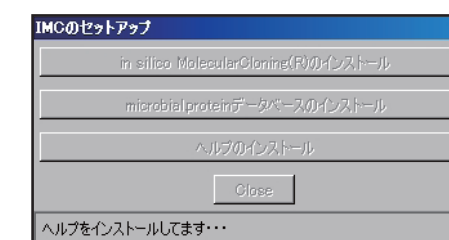
1. インストールメニュー上の「ヘルプのインストール」をクリックします。
2. すると、確認メッセージが表示されます。



3. 「はい (Y)」 をクリックします。すると、ヘルプをインストールするディレクトリを指定するように、ディレクトリ選択ダイアログが表示されます。そのままデフォルトのディレクトリに保存します。



4. するとヘルプのインストールの実行が開始されます。実行中はダイアログ(株)に、インストール状況メッセージが表示されます。



5. インストールが終了すると、完了メッセージが表示されます。了解をクリックすると閉じます。



Installation, Multi-language を選び (Offline Installation を選ぶと全体をダウンロードしてから Installation を行いますが、結果は同じです)、クリックします。

5. すると、ダウンロードとインストールが開始されます。

6. 途中で、もう一度、今度は日本語で「利用許諾への同意」が促されますので、内容をよく読んで、問題なければ「同意します」をクリックすると、インストールが続き、インストールは完了します。

7. すでに、IMC をインストールしている場合は、一旦 IMC をアンインストールします。手順については、「IMC のアンインストール方法」をご覧ください。

8. IMC のアンインストールが終わったら、最初から IMC をインストールします。

JRE のダウンロードとインストール

インシリコモレキュラークローニング (IMC) のインストールには前もって、Java 2 Runtime Environment, Standard Edition(J2SE JRE) Version 1.5.0 以降のインストールが必要となります。Java がインストールされていない場合には、user.properties ファイルが生成されませんので、その時は、J2SE JRE Version 1.5.0 以降のインストールを以下のようにしてください。Mac OS X の場合は通常最初から J2SE JRE がインストールされていますので、通常インストールの必要はありません。したがって、ここでは Windows XP の場合に限って説明します。

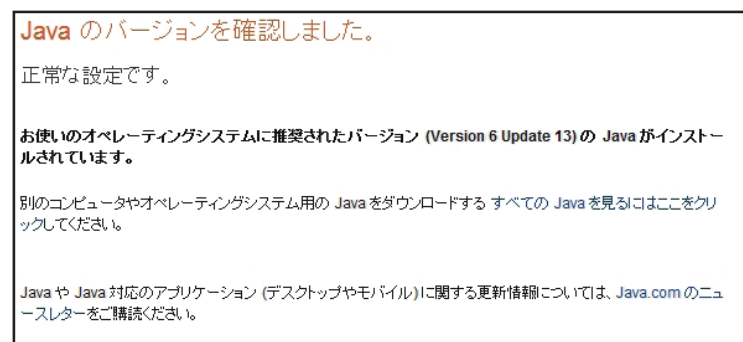
1. 以下のいずれかの URL にアクセスします。

<http://java.com/ja/download/>

<http://java.sun.com/j2se/1.5.0/ja/download.html>



2. 使用マシンに最適な Java の Version を確認します。現在使用中の Java Version が最適であれば、以下のようなメッセージが表示されます。



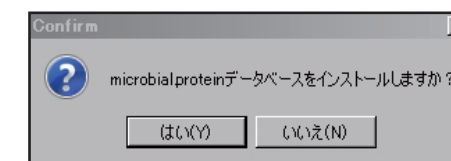
3. 最適でなければ「無料 Java のダウンロード」をクリックします。
3. すると、最初は英文の License Agreement が表示されますので、それをよく読み、問題なければ、「Accept」にマークし、「Continue」をクリックします。
4. Download 画面に変わりますので、「Windows Platform」の Windows

参照データベースのインストール

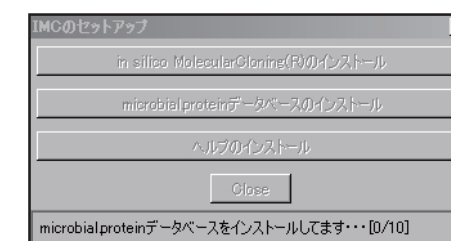
参照データベースのインストールは、インストールメニューから「Microbial Protein データベースのインストール」をクリックすると実行できます。



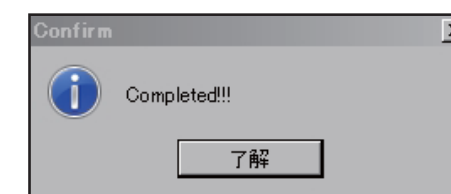
1. インストールメニュー上の「Microbial Protein データベースのインストール」をクリックします。
2. すると、確認メッセージが表示されます。



3. 「はい (Y)」 をクリックします。
4. すると Microbial Protein データベースのインストールの実行が開始されます。実行中はダイアログ欄に、インストール状況メッセージが表示されます。



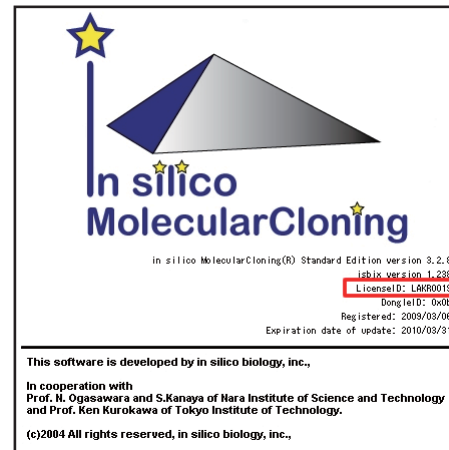
5. インストールが終了すると、完了メッセージが表示されます。了解をクリックすると閉じます。



ライセンス情報の確認

IMC の起動画面上で、 dongle に登録されているライセンス情報を見ることができます。

1. IMC を起動します。
2. IMC の起動画面が表示されます。この画面上にライセンス情報が表示されます。



IMC Version 名： 現在インストールされている IMC の Version 名です。

ライセンス ID： 現在使用中の IMC のライセンス ID です。

dongle ID： 現在 USB ポートに差し込まれている dongle の ID です。

ライセンス登録日： IMC ライセンスが登録された日付です。

ライセンス更新期限： 現在のライセンスで IMC を VersionUp できる期限です。

ライセンス ID、dongle ID、ライセンス登録日、ライセンス更新期限は、初期登録段階では、このマニュアルの最後に記載されている情報と一致します。

インストールのトラブル

インストール中にエラーとなるケースは以下のようなものが考えられます。

Java Runtime Environment(JRE) がインストールされていない

IMC のインストールおよびその後の利用のためには、Java Runtime Environment が予めインストールされていることが必要です。Mac OS X ではコンピュータの購入時点ですでにインストールされているため、このトラブルはありませんが、Windows の場合は、JRE をユーザがインストールすることになっているため、JRE がインストールされていない場合があります。

JRE がインストールされていない場合は、JRE をダウンロードし、IMC のインストール以前に、JRE をインストールをしておく必要があります。JRE インストールについては、次の項目で記述されています。

Java Memory Size を実装メモリーサイズ以上に設定した

この場合は、インストールは成功しますが、IMC の起動がうまくいきません。Java のメモリーサイズの変更は、インストール時以外にも設定可能です。Java Memory Size の変更については、10 ページに記述されています。